

海の生き物と水生生物

※見られる生きもののごく一例です



ユウゼン
Chaetodon daedalma

日本固有のチョウチョウウオの仲間。日本の伝統的な染工芸である友禅染めと似た柄を持つことが名前の由来。



オビシメ
Scarus obishime

小笠原固有と言われているものの、八丈島でも見ることができそうです。アオブダイとよく似ています。



バラハタ
Variola louti

赤い体に青や桃色の小さい斑がある美しいハタ。シガテラ毒を持つことで知られていますが、小笠原では持っていません。



クマノミ
Amphiprion clarkii

小笠原のクマノミは黒白です。日焼けでもしたのでしょうか？幼魚の時は暖色が混ざります。



マダラエイ
Taeniulops meyeri

全身にまだら模様が入っている大型のエイ。小笠原では、とびうお棧橋のアイドル。



ネムリブカ
Triaenodon obesus

小笠原で最もよく見られるサメ。南島や宮之浜などで昼寝をしている様子が見られます。



シロワニ
Carcharias taurus

顔はおっかないが大人しいサメ。絶滅危惧種ですが、小笠原ではトビウオ棧橋でゆったりと泳ぐ姿が見られます。



カサガイ
Cellana mazatlandica

岩場などでよく見られるカサガイ。小笠原諸島だけに生息するものは天然記念物に指定されています。



ザトウクジラ
Megaptera novaeangliae

小笠原の冬の風物詩と言えば、ホエールウォッチング。11月下旬～5月上旬が見頃。



ミナミハンドウイルカ
Tursiops aduncus

水族館でもお馴染みの人気者。小笠原では1年を通して観察できます。ドルフィンスイムと一緒に泳げます。



ハシナギイルカ
Stenella longirostris

ミナミハンドウイルカより小柄なイルカ。口が長めなのが特徴です。1年を通して観察できます。



ムラサキオカヤドカリ
Coenobita purpureus

天然記念物に指定されているオカヤドカリの一種。よくアフリカマイマイの殻を背負っています。



オガサワラヨシノボリ
Rhinogobius ogasawaraensis

小笠原固有のハゼの仲間。2011年に新種として記載されました。



オガサワラカワニナ
Semisulcospira boninensis

小笠原固有の淡水にのみ生息する、2cmほどの小さな巻貝です。



ヘリトリオカガニ
Discoplax rotunda

準絶滅危惧種のカニ。海岸の岩場などに生息しています。小笠原では父島と南島で観察できます。



オガサワラベニシオマネキ
Paraleptuca boninensis

小笠原固有のシオマネキ。生息場所が限られているものの、住宅街の近くで1年を通して観察することができます。